

いる。1 GeV 以下のところは地上では観測が不可能で、これは科学衛星による研究が著しい進展をみせた。しかしこれらの宇宙線粒子はそのエネルギーの関係から太陽系空間の比較的の内側を探索するのに適しているが、もっと大きなスケールの状態を知ろうとするにはさらに高エネルギー宇宙線 (100~1,000 GeV) の精密観測がぜひ必要である。このためには地下数十メートルに宇宙線検出用のプラスチック・シンチレータを置き宇宙線中間子を連続的に観測する計画がすすめられている。近い将来これによって 1~10 AU の太陽系空間に探りを入れることができるようになるであろう。

掲 示 板

東京大学理学部天文学教室公募

下記により公募いたします。希望者の応募、適任者の推薦をお願いいたします。

1. 公募人員……助手 1 名
2. 専門分野……天文学
3. 就任時期……昭和 47 年 7 月の予定
4. 提出書類……履歴書, 研究論文リスト, 推薦書
(他薦の場合)
5. 締切期日……昭和 47 年 5 月 20 日
6. 宛 先……(〒113) 東京都文京区弥生 2-11-16
東京大学理学部天文学教室主任
末元善三郎

新 刊 紹 介

Nuclei of Galaxies

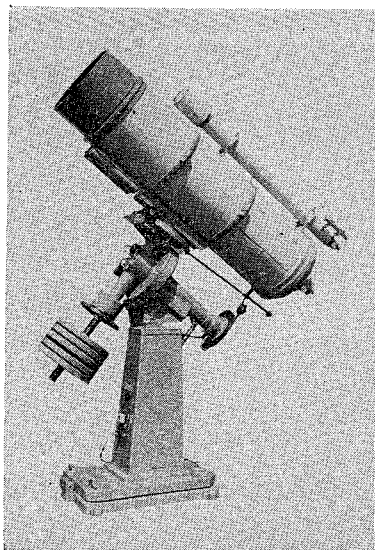
O'Connell 編

(North Holland Co. Ltd.,
B5 判, 795 頁, 約 16,000 円)

本書は1970年4月にパチカンでおこなわれた「ギャラクシーの中心核」に関する研究会の集録である。

ギャラクシーの中心核の実体と、そこでおこる種々の現象を解明することは、ギャラクシーと宇宙の進化を理解するうえには、きわめて重要である。パチカンでの研究会の目的は、自然科学のある分野で基本的な重要性をもち、専門家の見解がさまざまであるような問題を取りあげて、少人数の科学者のグループでそれについてできる限り徹底的に議論して、なんらかの結論をひきだそうとするものである。ギャラクシーの中心核の問題は、まさにこの研究会の意図に相応しいものであろう。この「ギャラクシーの中心核」の研究会を開くために、1967年から準備がなされたうえで、異なる見解をうまくカバーするように、世界各国から25名の参加者が選ばれた。

研究会は、Ambartsumian の introduction のあと、第 I 部観測結果とその解釈では、次の15の論文が発表されている。セイファート・ギャラクシーの形態学 (Morgan ほか)、ギャラクシーの中心核の恒星成分と進化 (Spinrad),



天体望遠鏡
ドーム, 製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

- | | |
|--------|---------------------|
| No. 1 | 富山市立天文台 |
| No. 2 | 仙台市立天文台 |
| No. 3 | 東京大学 |
| No. 4 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 5 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 6 | 台北天文台 (TAIWAN) |
| No. 7 | 北イリノイズ大学 (USA) |
| No. 8 | サン・チェゴ大学 (USA) |
| No. 9 | 聖アンドリウス大学 (ENGLAND) |
| No. 10 | 新潟大学高田分校 |
| No. 11 | ソウル大学 (KOREA) |
| No. 12 | 愛知教育大学(刈谷) |

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570
691-9580